

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-296839
(P2000-296839A)

(13) 公開日 平成12年10月24日 (2000. 10. 24)

(51) IntCl ⁷	識別記号	F I	テームト [*] (参考)
B 6 5 D	5/483	B 6 5 D	J 3 E 0 6 0
	5/486		C 3 E 0 9 6
	85/30		F

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-107585

(22) 出願日 平成11年4月15日 (1999. 4. 15)

(71) 出願人 000106885

シグマ紙業株式会社

大阪府大阪市西淀川区御幣島5丁目12番24号

(72) 発明者 青木 好春

東京都大田区西糞谷2-12-15-203

(74) 代理人 100038965

弁理士 秋山 鳳見 (外2名)

Fターム(参考) 3E060 AB05 BA03 CC03 CC05 CC33

CC42 CC43 CC49 DA01 EA09

EA20 EA21

3E096 AA06 BA22 BB01 CA03 CC01

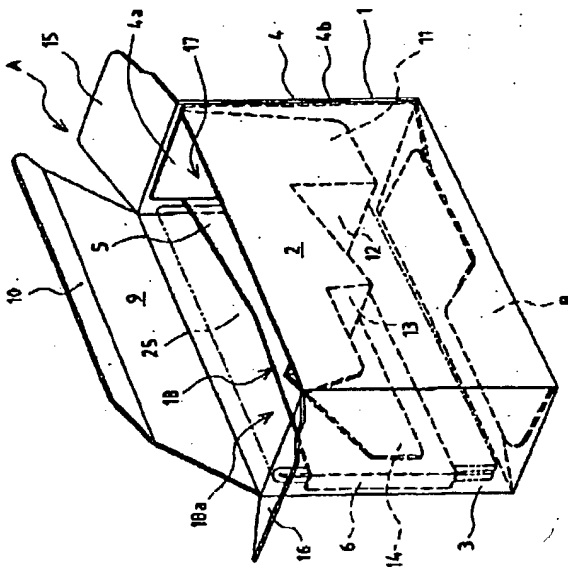
DA01 EA01X EA01Y

(54) 【発明の名称】 収納箱

(57) 【要約】

【課題】 偏平形状の書類に対する収納及び取り出しの操作が容易で、かつその書類を安定した状態で収納できる収納箱を提供することである。

【解決手段】 収納箱Aは、上端面が開口17された有底の箱本体1と、この箱本体1の開口17を開閉できる蓋板9とからなる箱体において、この箱体の箱本体1内に、開口17に面する向きに開放部18aを有するように区分板5が設けられてなり、この区分板5によって区分される間隙18内に、偏平な形状の書類25を収納できるようにしたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】上端面が開口された有底の箱本体と、この箱本体の前記開口を開閉できる蓋板とからなる箱体において、この箱体の箱本体内に、前記開口に面する向きに開放部を有するように区分板が設けられてなり、この区分板によって区分される間隙内に、偏平な形状の書類を収納できるようにしたことを特徴とする収納箱。

【請求項2】箱本体の後板に蓋板が連続して折り曲げ自在に設けられていると共に、箱本体の前板の上端部に連続して支持板が折り曲げ可能のように設けられ、この支持板の側端部から連続して内側板と、区分板とが順にそれぞれ折り曲げ可能に設けられてなり、この内側板と区分板とが折り曲げられて、この区分板と前記後板内面との間に間隙が形成されるようにした請求項1に記載の収納箱。

【請求項3】支持板の面上に、その横幅の向きに沿って切込みを設け、この切込み端から支持板の端縁に至る折り線を介して折り曲げることによって、この支持板の切出し部分を立ち上げて、箱本体の収容部内を仕切る仕切り板となした請求項2に記載の収納箱。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ドリンク剤や薬剤を収容する瓶やアンプル等の収容器からなる物品と共に、その解説書や注意書等の偏平形状の書類を収納するのに適した収納箱に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ドリンク剤や薬剤を収容する瓶やアンプル等の収容器からなる物品は、特にその収容器部分が破損し易いために、さらに外装ケースとしての収納箱に収納された状態で取り扱われることが多い。このような収納箱には、その外面上に商品名や製造会社、販売店のほか、収納物品の品質事項や取扱方法が表示される。さらに詳細な解説書や注意書は、薬事法等の法上の責務として要求されるが、これらの書類については、折り畳まれた状態で偏平形状にして、これを収納箱内に収納した物品の上に載せた状態で、あるいは収納した物品と箱本体との隙間に押し込んだ状態で収納されるのが、一般的である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、解説書や注意書等の書類を、収納した物品の上に載せられた状態で収納するには、その書類を折り畳んで極めて小さくしなければならない場合が多い。例えば、収納物品がアンプル容器に収容されたもの等横幅の小さいものである場合には、これを収納する収納箱の横幅についても、比較的の小さいものとなるから、このような横幅に適ったものしなければならないからである。このように小さく折り畳まれた書類は、その折り畳み作業のために要する費用が高くなるし、また、折り畳んだ状態で分厚くなってし

まい、その収納箱内での収納状態も不安定である。このため、一旦、物品を使用するために収納箱を開くと、その書類を紛失してしまうことが多い。これでは、収納箱に複数の物品が収納されている場合、再度確認できなくなることにもなる。

【0004】また、この書類が、収納物品と箱本体との隙間に押し込んだ状態で収納される場合には、この書類のために収納箱が変形したり、その収納する作業も困難であることが多い。また、その収納すべき隙間が極めて狭く、物品を収納した状態で、その書類を取り出すのにも苦勞するし、場合によって、書類の存在すら確認できなくなることも多い。またさらに、その書類の厚さが制限される、などの欠点がある。

【0005】そこで、本発明では、上記したような収納物品に関する解説書や注意書等の偏平形状の書類を、収納及び取り出しの操作が容易で、かつ安定した状態で収納できる収納箱を、簡単かつ経済的な構成で提供することを目的とした。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記した目的を達成するため、本発明の収納箱は、上端面が開口された有底の箱本体と、この箱本体の前記開口を開閉できる蓋板とからなる箱体において、この箱体の箱本体内に、前記開口に面する向きに開放部を有するように区分板が設けられてなり、この区分板によって区分される間隙内に、偏平な形状の書類を収納できるようにしたことを特徴とする。

【0007】上記した本発明の収納箱によれば、その箱本体内に設けられた区分板により間隙が、箱本体の開口に面して形成され、この間隙に偏平な形状の書類を収納できるようにしたので、前記した解説書等の収納箱内への収納及び取り出しの操作が容易である。また、この区分板の構成により、書類の収納位置が定まるから、常にその位置で書類を発見することができる。また、この区分板は、収納された収容物の側面位置にあって、収納箱において、その防護壁としても機能する。

【0008】また、この区分板による間隙の間隔やその横幅は、収納する書類の厚さに対応させて、適宜設定される。従って、多数回折り畳まれた書類が分厚いものであっても、同様に扱うことができる。また、間隙内に特別な底部分は必要とされない。この収納箱自体の底板がその役割を果たすからである。

【0009】また、上記した本発明の収納箱は、箱本体の後板に蓋板が連続して折り曲げ自在に設けられていると共に、箱本体の前板の上端部に連続して支持板が折り曲げ可能のように設けられ、この支持板の側端部から連続して内側板と、区分板とが順にそれぞれ折り曲げ可能に設けられてなり、この内側板と区分板とが折り曲げられて、この区分板と前記後板内面との間に間隙が形成されるようにした構成とすることができる。

【0010】この構成による場合、この収納箱の各部

を、厚紙材等の折り曲げ可能な材料によって形成できる。また、上記した間隙は、例えば、区分板の端部にさらに耳片を折り曲げた状態で設け、この耳片の端部を箱本体の内面に当接するように配することによって維持できる。この場合、区分板については、その端部が箱本体の対面する側板内面に固定されても、固定されていなくてもよい。

【0011】このように、収納箱の蓋板と箱本体とが連続して形成され、さらに、箱本体について、区分板が一連に形成されることにより、この収納箱の各部を一枚のシート材を単に裁断加工し、これを曲げ加工及び貼着加工するだけで、本発明の収納箱として構成することができる。従って、収納箱を極めて簡単な加工過程のみで、容易に得ることができる。

【0012】また、本発明の収納箱には、上記した構成において、特に、支持板の面上に、その横幅の向きに沿って切込みを設け、この切込み端から支持板の端縁に至る折り線を介して折り曲げることによって、この支持板の切出し部分を立ち上げて、箱本体の収容部内を仕切る仕切り板となした構成を含む。

【0013】この構成によれば、複数本の収容物を、それぞれ仕切り板を介して収納箱内に収納することにより、その収納状態を安定化させることができると共に、その仕切り板の一体化構成により、上記した加工上の容易性についても、そのまま確保できる。また、この構成による場合、切込みの形成位置や本数により、任意数の仕切り板を同様に形成できる。

【0014】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態を図に基づいて説明する。本発明の実施の形態に係る収納箱Aを図1に示した。収納箱Aは、上端面が開口17された底部8を有する箱本体1と、この箱本体1の開口17を開閉できる蓋板9とからなる箱体において、この箱体の箱本体1内に、開口17に面する向きに開放部18aを有するように区分板5が設けられてなり、この区分板5によって区分される間隙18内に、偏平な形状の書類25を収納できるようにしたことを特徴とする。

【0015】この収納箱Aは、図2に示すように、定形に裁断した厚紙加工材を、組み立てることによって得られたものである。即ち、この厚紙加工材では、前板2の両側端に、側板3と内側板4aとが、折り線20を介してそれぞれ連続して設けられている。また、内側板4aの側端部分には、区分板5が、折り線20を介して連続して設けられている。この内側板4aと区分板5との間の折り線20は、内側板4aの側端に対して内寄り変位した位置に形成されていると共に、この折り線20の下端からは、内側板4aの側端縁から切込み22が設けられている。また、6は、区分板5の側端に設けられた耳片である。

【0016】なお、8dは内側板4aの下端に、また8

fは側板3の下端に、それぞれ連続して設けられた貼着用舌片である。また、上記した前板2等の各部は、それぞれ折り線20を介して折り曲げ自在に形成されている。

【0017】また、前板2には、その下端に底板片8a、その上端に支持板11が、それぞれ連続して設けられている。この底板片8aの端縁には切欠き19を有し、また、その斜側端には、貼着舌片8cが連続して設けられている。これら各部が、折り線20によって折り曲げ自在であるのは、前記同様である。

【0018】また、支持板11の面上には、切込み23及び24が設けられている。切込み23は、支持板11の面内でその横幅方向に沿って円弧状に形成されている。また、切込み24は、切込み23に沿う向きに設けられ、その一端は支持板11の側端縁にまで及んでいる。また、切込み23及び24の端部からは、支持板11の上端縁にまで及ぶ、折り線20が互いに平行に形成されている。さらに、このような折り線20は、切込み23の中間位置にも形成されている。このように形成される支持板11について、各折り線20で折り曲げることによって、各折り線20間の部分12、13を、支持板11面に対して立ち上げた状態に変形することができる。この立ち上げ部分は、仕切り板12、13として形成される(図3参照)。また、このとき、仕切り板12、13の各側端は、支持板11からの切出し部分である固定板14により一連に支持されている。

【0019】また、側板3には、その他方の側端から後板7と外側板4bとが、順に連続して設けられている。なお、外側板4bには舌片15が、また側板3の上端には舌片16が、それぞれ連続して設けられている。これら各部についても、前記同様に折り線20によって折り曲げ自在に形成されている。

【0020】また、後板7には、その上端から蓋板9と耳片10とが連続して設けられ、また、その下端に底板片8bが設けられている。底板片8bは、底板片8aと同形であり、その斜側端に貼着用舌片8eを伴い、切欠き19を有する。これら各部が、折り線20によって折り曲げ自在であるのは、前記同様である。また、21は、折り線20での折り曲げ加工を容易にするため、厚紙に設けられた切込みである。

【0021】次に、この厚紙加工材の組み立て加工途中の過程の状態を、図3に示した。この加工段階は、前記したように立ち上げられた仕切り板12、13を伴う状態で、支持板11を前板2の内面側に折り曲げられて接面させた状態を示すものである。また、内側板4a、外側板4b、区分板5、後板7、底板片8a、8b、さらには、貼着舌片8c、8d、8e及び8fが、対応する折り線20で、組み立てようとする箱体の内方となる向きに、それぞれ折り曲げられる。

【0022】この折り曲げ加工により、区分板5が、固

定板14面への接面され、この接面位置で、固定板14が区分板5の面上に貼着固定される。この固定状態を二点鎖線で示した。また、同様に、貼着舌片8cの下面には貼着舌片8dが、また貼着舌片8fの下面には貼着舌片8eが、それぞれ貼着固定される。

【0023】次いで、側板3、後板7及び外側板4bの部分がさらに折り曲げられて、外側板4bが内側板4aの外面上に接面されて貼着固定される。この際、耳片6が側板3の内面上に貼着固定されると共に、底板片8aと8bとが、それらの切欠き19を相互に嵌め合わせられることによって一体化され、底板8として形成される。

【0024】このような加工過程を経て、図1に示した収納箱Aとして形成される。この収納箱Aでは、その箱本体1内で、区分板5により形成される間隙18が、切込み22によって内側板4aの側端に対して変位する幅と、この変位幅に合致した耳片6の横幅により規制される間隔で形成されている。また、箱本体1内は、仕切り板12、13によって区分されている。また、その開口17は、対応する折り線20を介して内折りされた蓋板9、耳片10、舌片15、16によって開閉できる。

【0025】この収納箱Aに対しては、その箱本体1内に、図4及び図5に示すように、物品26…と書類25とを区分して収納することができる。このとき、書類25は、折り畳まれた状態で一定の厚みを有するが、区分板5によって区分される間隙18は、この書類25の厚みに対応している。従って、書類25は、安定した状態で間隙18内に収納させることができる。また、間隙18の開放部18aは、箱本体1の開口17に面しているから、書類25に対する収納及び取り出しも容易である。

【0026】また、各物品26についても、仕切り板12、13により区分された状態で箱本体1内に収納させることができる。また、このような仕切り板の数は、前記した支持板11に対する切込み加工によって、任意数形成できるから、収納箱Aとは異なった区分数の収納箱として構成できる。

【0027】

【発明の効果】上述したように本発明は構成されるから、次のような効果が発揮される。まず、収納箱について、上端面が開口された有底の箱本体と、この箱本体の前記開口を開閉できる蓋板とからなる箱体において、この箱体の箱本体内に、前記開口に面する向きに開放部を有するように区分板が設けられてなり、この区分板によ

って区分される間隙内に、偏平な形状の書類を収納できるようにしたことから、偏平形状の書類を安定状態で確実に収納箱内に収納させることができる。また、この収納は、書類が多重に折り畳まれて分厚くなっている場合でも、同様に確保される。従って、収納箱内へのこの書類収納作業が容易となる。また、この収納箱を開蓋するとき、書類を容易に見え、また、その取り出し及び再度の収納も容易である。このため、書類を紛失してしまうようなことはない。

【0028】また、本発明の収納箱は、厚紙等を所定の形状に裁断することにより、その構成各部を一連にした加工材とし、これを組み立てることによっても構成できるから、簡単かつ経済的に構成することが可能である。また、この場合、収容物に対する収納部を任意数区分した構成とすることもできる。従って、多様な物品の収納に応じることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る収納箱の開蓋状態の斜視図である。

【図2】同上の加工材の展開平面図である。

【図3】同上の加工材を組み立てる過程を説明する斜視図である。

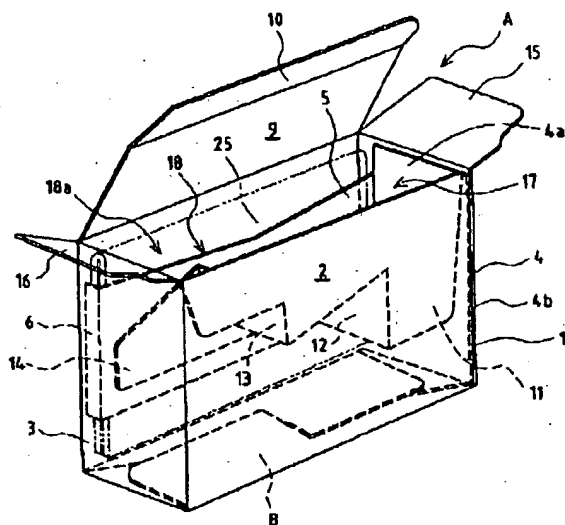
【図4】同上の平面図である。

【図5】同上のイーイ縦断面側面図である。

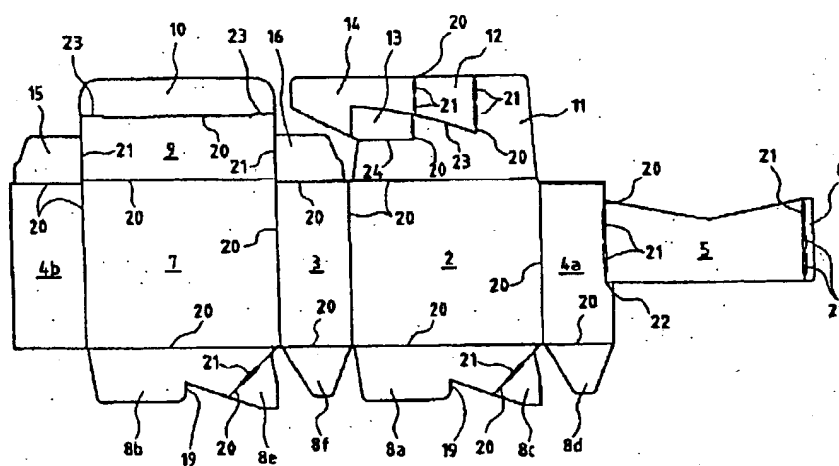
【符号の説明】

- A 収納箱
- 1 箱本体
- 2 前板
- 3 側板
- 4a 内側板
- 4b 外側板
- 5 区分板
- 6 耳片
- 7 後板
- 8 底板
- 8a、8b 底板片
- 9 蓋板
- 11 支持板
- 112、13 仕切り板
- 17 開口
- 18 間隙
- 18a 開放部

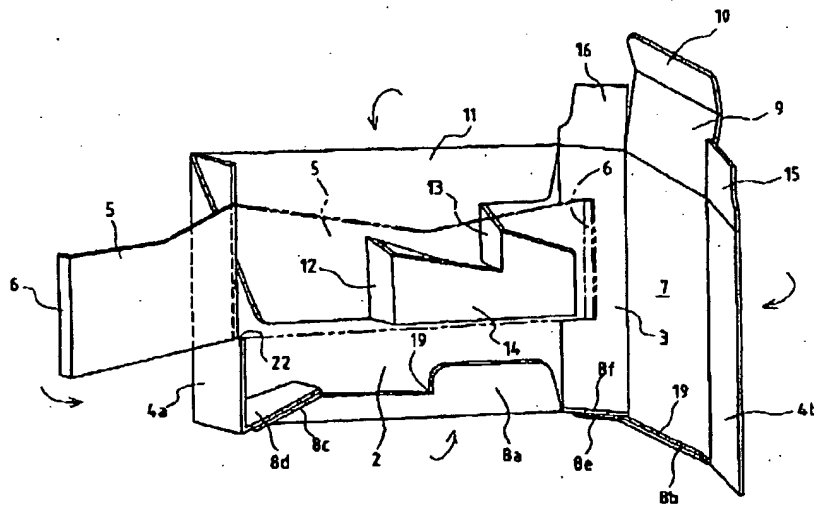
【圖 1】



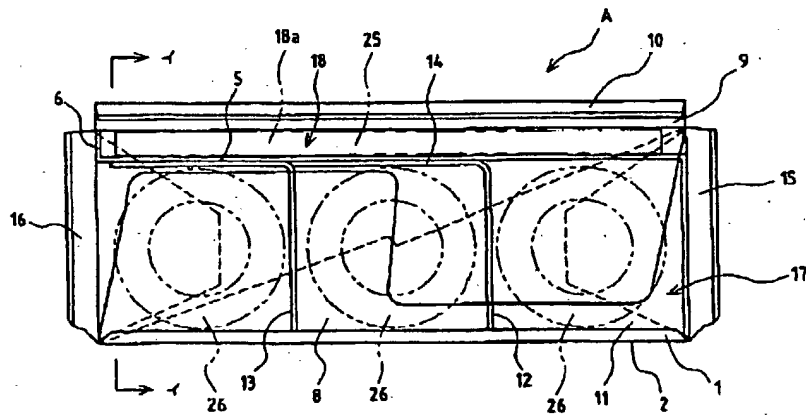
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

